

TAC行政書士講座セミナー

合格を勝ち取るための正しい学習法と戦略的タイムスケジュール

担当講師：早川兼紹

本日は、TAC 行政書士講座のセミナーにご参加いただきありがとうございます。

本日ご参加いただいた皆様は、来年（2010 年度）の行政書士試験の受験をご検討されている方々と存じます。

今年（2009 年度）の本試験は来月（11/8（日））実施となっておりますので、現時点ではまだ実施されておられません。

今年の本試験が終了していない段階で受験を検討されている皆様は、合格に向けて大変早いスタートを切ったということになると思います。

受験まで約 1 年の学習期間をとることができれば、合格のための十分な対策をとることができるというよいでしょう。

本日のセミナーのタイトルは、「合格を勝ち取るための正しい学習法と戦略的タイムスケジュール」と銘打っております。

従いまして、セミナー内容も試験にチャレンジすることを前提とした内容となっております、5ステップで受験に役立つ情報を提供して参ります。

もちろん、まだ行政書士試験受験を決断したわけではないという方もいらっしゃると思います。しかし、本当に受験するつもりで聴いた場合とそうでない場合では内容に対する理解も全く異なります。

後日受験を決断した時に本日のセミナー内容を無駄にしないためにも、すべての方に受験する決断をしたつもりになってお聞き頂ければと思います。

行政書士試験へのチャレンジを決断！

Step1

行政書士試験の仕組みを知り、合格のための目標点を設定しよう！

- ・ 出題科目（法令・一般知識）
- ・ 科目ごとの配点
- ・ 出題形式（五肢択一式・多肢選択式・記述式）
- ・ 合格基準（基準点＋総得点の60％）
- ・ 合格率（5～10％）、難易度、学習時間
- ・ 目標点の設定

Step2

行政書士試験で出題される内容を押さえよう！

- ・ 試験全体の出題内容（条文・判例・理論（学説））
- ・ 各科目の特徴・出題内容（条文・判例・理論（学説））の割合

Step3

どのような学習をすれば効率よく合格点がとれるかを考えよう！

- ・ 学習法総論
- ・ 各科目の関連性
- ・ 各科目の学習方法
- ・ インプットとアウトプットの関係
- ・ 過去問の重要性



Step4

一発合格のための戦略的タイムスケジュールを考えよう！

- ・学習順序についての検討
- ・タイムスケジュールの具体例



Step5

合格のための学習ツールの選択について考えよう！

- ・独学 or 受験指導校
- ・学校選択

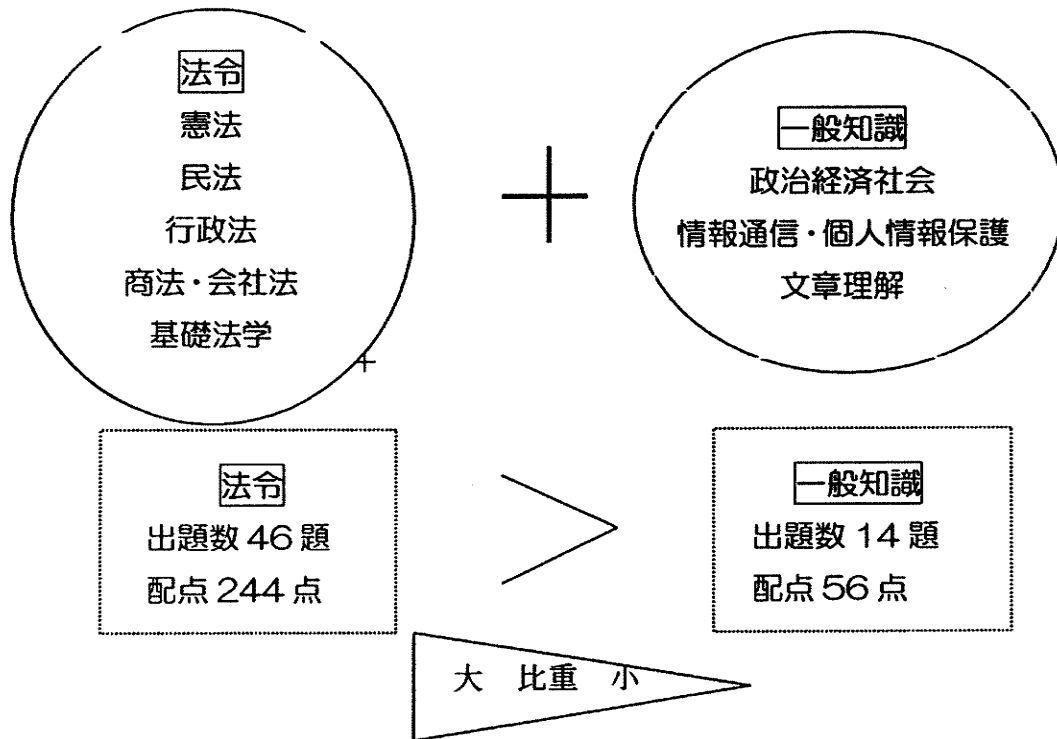


TAC で一緒にがんばりましょう！行政書士試験合格に向けて我々が全面的にバックアップします！

Step 1

行政書士試験の仕組みを知り、合格のための目標点を設定しよう！

〔出題科目〕



〔配点表〕

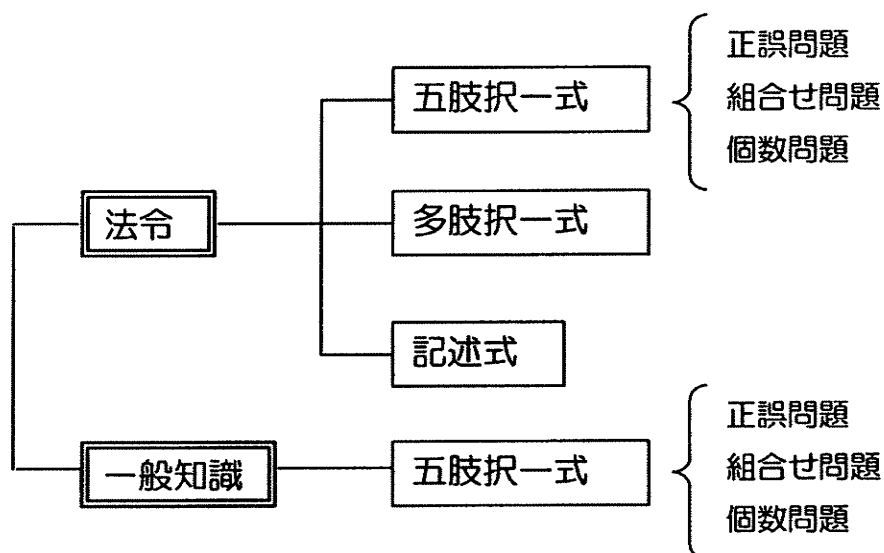
択一式	1 問 4 点
多肢選択式	1 問 8 点
記述式	1 問 20 点

法令	五肢択一	40 問 (@4 点)	160 点	法令計 244 点
	多肢選択	3 問 (@8 点)	24 点	
	記述	3 問 (@20 点)	60 点	
一般知識	五肢択一	14 問 (@4 点)		一般知識計 56 点
合計		60 問		総計 300 点

〔出題形式〕

法令には、①五肢択一式、②多肢選択式、③記述式の3つの形式がある。

一般知識は、①五肢択一式のみの出題で、②多肢選択式や③記述式による出題はない。



①五肢択一式

- ・ 五個の選択肢から1つを選びマークする形式。
- ・ 正しいもの（妥当なもの）又は誤ったもの（妥当でないもの）を1つだけ選ぶ正誤問題、正しいもの（妥当なもの）又は誤ったもの（妥当でないもの）の組合せとなっている選択肢をマースする組合せ問題、正しいもの（妥当なもの）又は誤ったもの（妥当でないもの）の個数を選んでマークする個数問題がある。
- ・ 難易度は、組合せ問題、正誤問題、個数問題の順で高くなる。

②多肢選択式

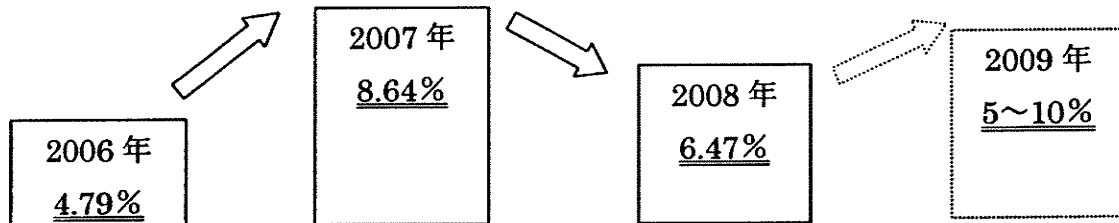
- ・ 10～20行ほどの文章の中に空欄が4つあり、20個の選択肢の中から空欄に当てはまる語句を選んでマークする問題。憲法と行政法から出題されている。

③記述式

- ・ 40字程度で解答欄に文章を記述する問題。行政法と民法から出題されている。

〔合格率〕

新試験制度が実施された 2006 年以降は、4%後半から 8%後半で推移。



今後も合格率は 5~10%で推移すると予想される。

〔難易度&学習時間〕

2003 年以降の難化傾向は著しいが、新試験制度のもとで 2006 年以降は易化傾向にある。さらに、ここ 2 年の合格率の上昇で滞留していた実力ある受験生が順当に合格し、受験環境がかなり好転しているのは確か。ただし、新試験制度のもとでは絞り込まれた特定の科目について深く掘り下げて出題される傾向となっており、合格レベルに達するまでには、500 時間前後が必要。

今後の合格率は 5~10%で推移すると予想される。

〔目標点の設定〕

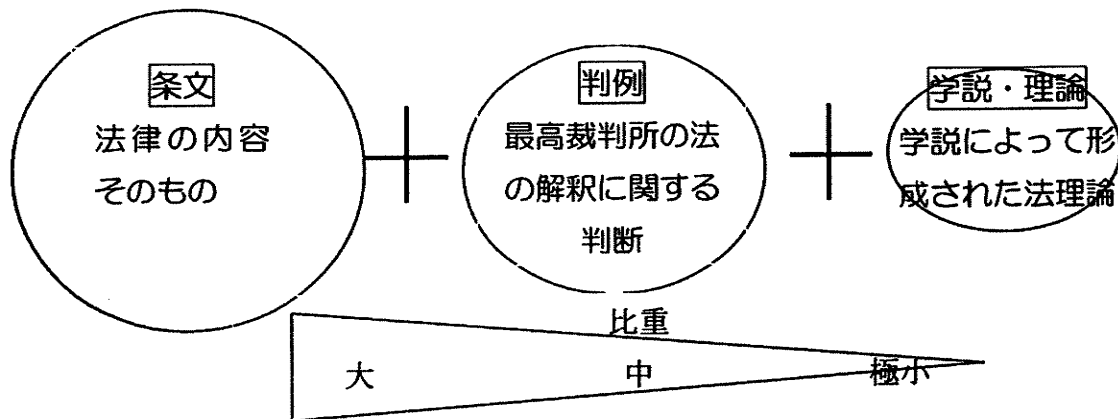
法令	五肢択一	40 問中 ⇒26 問正解	104 点	法令 計 156 点
	多肢選択	3 問 12 空欄中 ⇒10 個正解	20 点	
	記述	3 問 60 点中 ⇒部分点も含めて 32 点 獲得	32 点	
一般 知識	五肢択一	14 問中 ⇒6 問正解	24 点	一般知識 計 24 点
合計				総計 180 点

Step2

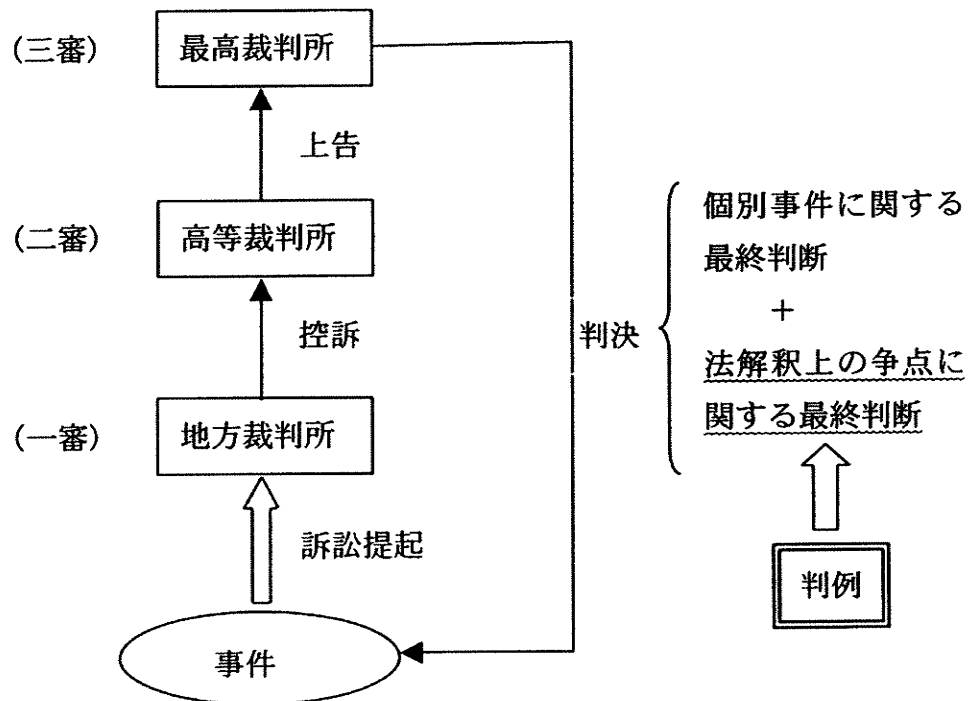
行政書士試験で出題される内容を押さえよう！

〔試験全体の出題内容〕

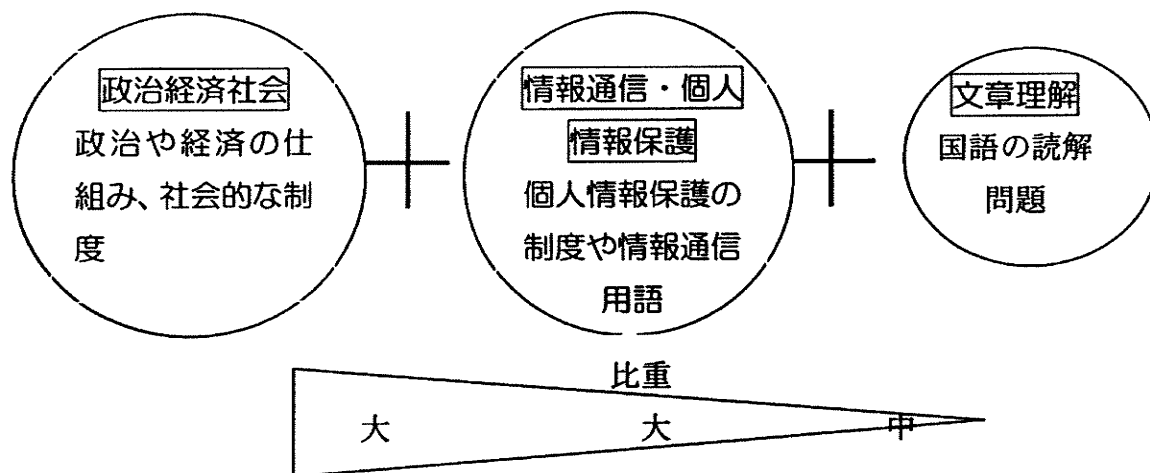
(法令)

**Q&A** 判例って何？

条文の文言だけでは、使われている言葉の意味や条文の適用の可否など不明確なことが出てきます。それに対して、法律を解釈して判断を下してくれるのが最高裁判所であり、その判断を判例とよんで、その後の法解釈の基準となります。



(一般知識)



〔行政書士試験（法令編）の出題内容〕

法令科目の出題内容 ⇒ 条文と判例（条文と判例の出題割合は7：3）

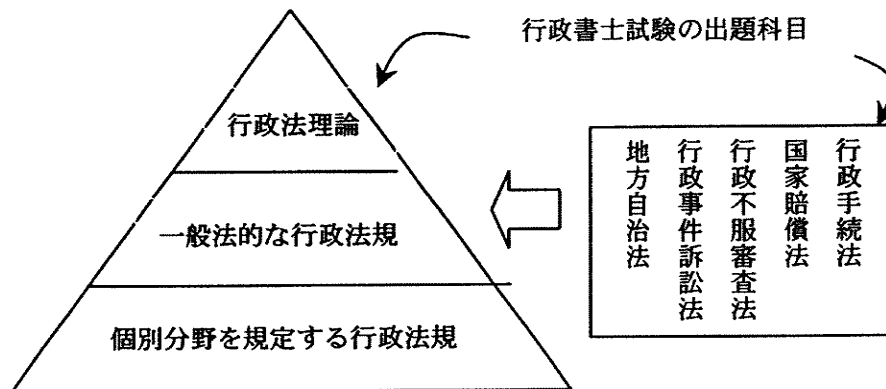
※理論・学説については毎年2、3問出題される程度であるから、行政法理論を除いて特別な対策は必要ない

		条文	判例	理論・学説
憲法	人権	△	◎	△
	統治	◎	△	△
民法		◎	◎	△
行政法	一般的な法理論	×	○	○
	行政手続法	◎	×	×
	行政不服審査法	◎	×	×
	行政事件訴訟法	◎	○	△
	国家賠償法・損失補償	△	◎	△
	地方自治法	◎	×	×
商法・会社法		◎	×	×

※判例を重視する必要がある科目は限られている（憲法の人権・民法・行政法の一般的な法理論・行政事件訴訟法・国家賠償法）ので、そこは部分的にしっかり判例を押さえ、あとはとにかく条文を徹底して学習していくことが合格への近道である。

Q&A 行政法って何？

行政活動の根拠となる各種の法の解釈によって生まれる共通的な法理論（行政法理論）と、行政手続法や行政不服審査法、行政事件訴訟法といった行政活動の一部について一般的に規律する法律をあわせて、行政書士試験では行政法とよんでいます。



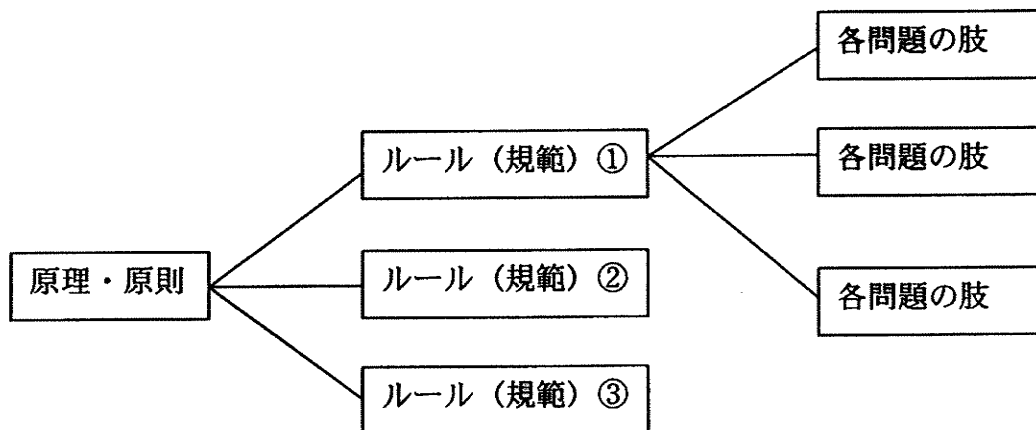
行政法とは、行政活動の根拠となる各種の法の解釈によって生まれる共通的な法理論と一般法的な要素を持つ行政法規の総称です。

Step3

どのような学習をすれば効率よく合格点がとれるかを考えよう！

〔学習法総論〕

①各法律の原理・原則（価値の体系）を理解し、共通のルール（規範）を押さえることで、個別に覚える事項を減らすことができる。



②まずは最後まで1つの科目を学習してみること、何度も繰り返すうちに範囲を広げ黒く塗りつぶすイメージをもって学習する。

③過去問は重要だが、今の行政書士試験では過去問だけでは合格点とはれない。過去問を情報として如何に使いこなすかが重要

〔配点割合による科目比較〕

	総配点	配点割合
行政法	112 点	37%
民法	76 点	25%
政治経済・情報通信 (うち情報通信・個人情報保護)	44 点 (20 点)	15% (7%)
憲法	28 点	9%
商法(会社法)	20 点	7%
文章理解	12 点	4%
基礎法学	8 点	3%

※配点割合から見ても、行政法・民法を攻略することが大切なことがすぐ分かる。

※基礎法学は非常に配点割合が低いので、直前期まで忘れておいていいだろう。

〔行政法の攻略〕

- ①行政手続法・行政不服審査法・行政事件訴訟法・国家賠償法の 4 法を優先して仕上げていこう。
- ②とにかく条文を丁寧に読み、整理しつつ、覚えていくこと。

〔民法の攻略〕

- ①事例問題に対して対策を怠らない！常に具体的ケースの中で、条文や判例のルールを使えるようにしておくこと。問題演習は必須。
- ②記述対策が必要

記述対策

- ①記述問題のネタになる条文・判例知識を事前に覚える
- ②記述問題の事例を通して、どの条文・判例知識が聞かれているかを抽出できるように訓練する。

Step4

一発合格のための戦略的タイムスケジュールを考えよう！

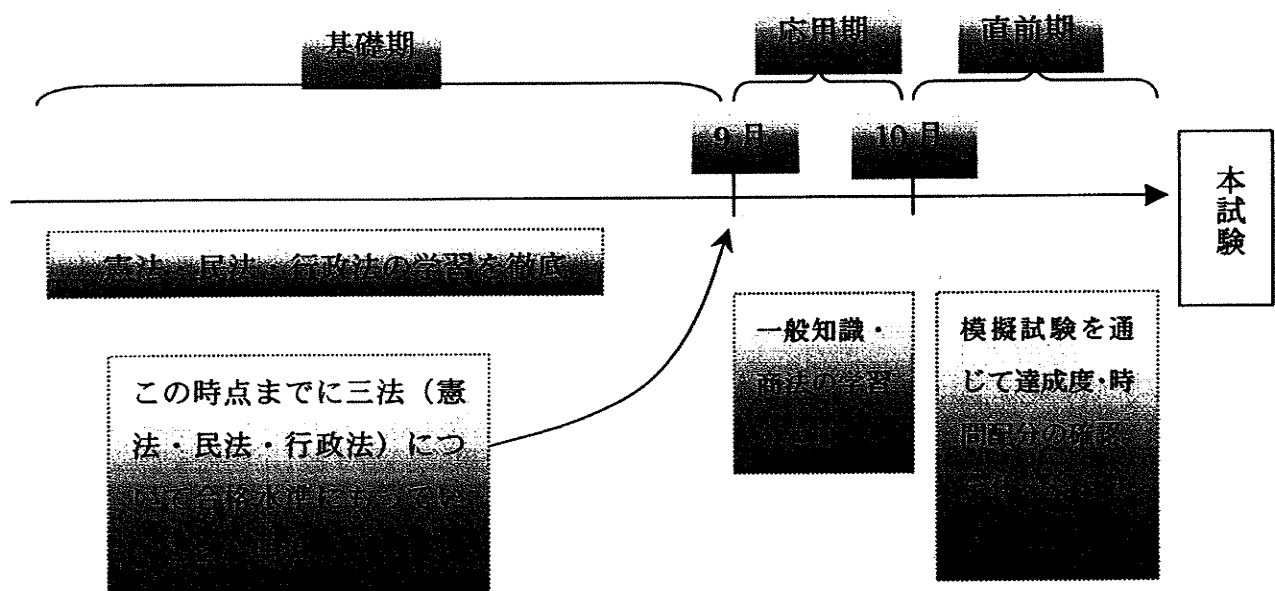
〔学習順序についての検討〕

- ・憲法 — 行政法 ⇒ 憲法を先に学習するのが合理的
- ・民法 — 行政法 ⇒ 民法を先に学習するのが合理的
- ・民法 — 商法・会社法 ⇒ 民法を先に学習するのが合理的
- ・法令 — 一般知識 ⇒ 法令を先に学習するのが合理的



結論 憲法 ⇒ 民法 ⇒ 行政法 ⇒ 一般知識 ⇒ 商法・会社法 ⇒ 基礎法学

【本試験までのスケジュール】



【(TAC の利用を前提とした) 学習システムのモデルケース】

〔講義前〕 テキスト該当部分の流し読み



〔初回講義〕

- ① 説明を聴く
(疑問点があれば講義後に講師に質問)



〔自宅学習〕

- ① テキスト・レジュメで復習(ランク付け+アンダーライン部分に注意)
② 復習問題で理解度チェック
③ トレーニングで該当の過去問を解く。
(余裕のある者・受験経験者は、アドバンスの該当問題を解く)



〔次回講義〕 ミニテストを受ける。



(以上を各講義回毎に繰り返し)

〔科目別答練〕 科目総まとめのテストで理解度を確認



(以上を各科目毎に行う)

〔直前期〕 答練・公開模試などの模擬試験を受験



行政書士試験 (11月14日予定)

【行政書士試験 Q&A】

Q1：合格レベルに達するまでにどの位の学習量が必要ですか？

A：個人差もありますが、時間で表すと（講義時間も含めて）500～600 時間位は必要と思われます。TAC の講座では、講義時間が約 200 時間ほどありますので、それと同等の時間（200 時間）を日常的な復習時間として取っていただき、直前期（9・10・11 月）に 100～200 時間を集中的に配分して頂くのが理想的です。

Q2：今年の合格を目指す場合、いつ頃から学習を開始するのがいいのでしょうか？

A：Q1 の必要学習量から逆算すると最低でも半年間、理想的には 10 ヶ月間程度の学習期間が欲しいところです。したがって、遅くとも 4・5 月には学習を開始した方がいいといえるでしょう。また、全くの法律初学者の方の場合、法律学習のイメージを掴むまでに時間のかかる方もおり、なかなか勉強が軌道に乗らないことも考えられます。途中で躓いたりしてもやり直しのきくよう余裕をもった学習スケジュールを組んでください。

Q3：独学で合格を目指すのは難しいのでしょうか？

A：結論から言えば独学でも合格することは可能です。法律系の学習参考書や問題集は数多くありますので、そういったものをうまく使っていけば独学でも対応できます。ただし、行政書士試験は試験制度が頻繁に変わっていることや出版事情等もあって、現時点においては現在の行政書士試験にマッチした行政書士試験用のテキストや問題集というのは正直ないといっていると思います。したがって、独学で合格レベルに達することが出来るかは、その辺りを自分で調べつつ補っていく労力を惜しまずできるかどうかだと思います。やはり、法律初学者の方や忙しくて学習時間のとりづらい方の場合、TAC のような学習指導機関を利用されるのが効率がいいのは確かです。

Q4：一般知識が苦手なので基準点を超えられるか不安です。

A：確かに、一般知識で基準点を超えられないと、法令の学習が無になってしまいますので、不安に思うのは当然です。ただし、一般知識の配点ウエイトは法令に比べてぐ～んと低いので、苦手でも全く問題ありません。基準点を超えればよいという守りの学習

をしていくことが肝要です。まず、文章理解で2問取れるように平易な文章問題を落とさないよう問題演習をしておきましょう。さらに、政治・経済・社会には頻出の分野がありますので、分野を限定して掘り下げて学習して2問とります。さらに、情報通信の分野では、個人情報保護法に関する出題が2、3問程度ありますので、しっかりと個人情報保護法を学習して2問取ってください。これで6問！基準点突破です。

Q5：法令というのは何を学習するのですか？また試験対策上の注意点はありますか？

A：法令での学習内容は、各法律（憲法・民法・行政法・商法）について条文と判例を理解し、覚えていくことです。憲法・行政法・商法では、条文・判例がそのままの形で問われますので、暗記の要素が強くなります。一方、民法では、もちろん学習内容は条文・判例ですが、そのままの形で聞かれるわけではなく、事例形式になっています。したがって、問題演習をしつつ、事例形式に慣れていく必要があります。注意点としては、行政法・民法のウエイトが高いことを意識しつつ、十分な時間をこの2科目に割っていくことです。配点は行政法の方が多いですが、試験的には行政法は得点の取りやすい出題が多く、逆に民法は得点しづらい出題が多くなっています。したがって、時間的にはほぼ同じ位の時間をこの2つの科目にかけることになると思われます。憲法・商法については、落としてはいけない問題をしっかりとっていくことです。この2つの科目についてはどれだけ効率良く学習できるかが重要になるでしょう。